

奈良県国語教育研究会報

第110号

発行所 奈良県国語教育研究会
 発行人 原井 葉子
 事務局 吉野町立吉野小学校
 吉野郡吉野町上市2298
 ☎ 0746-32-4333
 FAX 0746-32-8982



国語教育の推進に向けて

奈良県国語教育研究会
会長 原井 葉子

去る五月二十日の評議員理事合同会議において御承認いただき、会長に就任いたしました。本会の役員・事務局の皆さんと力を合わせて、奈良県の国語教育の推進に、微力を尽くしたいと思っています。よろしくお願いいたします。

本会では、平成十年度より、作問委員会に所属し、国語学力診断の作成を通して国語を学ぶ機会をいただきました。この文章の何を読み取らせるのか、どの言葉や文に着目させるのか、この問いで子どもたちのどのような国語の力を問うのか等、問題を作成する視点は、日々の国語の授業と重なります。部会で検討を重ね問題を作成していく中で、先輩諸先生方から御指導いただき学んだことは、自分自身の授業を振り返り、教材研究や発問を考えることにつながりました。

また、作問委員会では、冬季研究会で、学力診断の結果から、課題改善に向けた学習指導法の提案を行います。短い期間に、課題を分析し、ワークシートや補助教材など指導の手立てを考え、実際に授業を行ってその成果や課題を検証することには、苦勞もありました。しかし、その経験から、まず、目の前の子どもた

ちの姿をしつかりと見取ること、そして、授業を通して課題を改善していくことの大切さを実感することができました。

このように、これまで、本会で多くの先生方に出会い、御指導いただいたことが、自分の大切な財産となっています。「国語学力診断」は、昭和三十三年から今日まで、途絶えることなく続けられてきました。奈良県の国語教育の向上に果たしてきた役割を引き継ぎ、これから、多くの学校で活用いただけるよう尽力してまいります。

近年、グローバル化や情報化の飛躍的な進展、絶え間ない技術革新により、急激に社会構造等が変化し、子どもたちを取り巻く環境も大きく変わりました。スマートフォンは小学生にも身近なものとなり、学校現場でも、タブレットや電子黒板などICTを活用した授業実践が進んでいます。

しかし、時代が変わり、人工知能(AI)が発達しても、人間が思考し、表現するためには、言葉を使うことに、変わりはありません。こうした時代を生き抜き、自ら豊かな人生や社会を切り拓いていくために必要な力は、「言葉を理解し、自

分の言葉で自己表現ができる力」であると考えます。

いよいよ、小学校は令和二年度、中学校は令和三年度から、新学習指導要領が全面実施となります。今、目の前の子どもたちに付けたい言葉の力は何か、そのために、どのような言語活動が適しているのか、活動を通してどのような力が付いたのか、という視点を明確にもち、国語教育の「不易流行」を見極めながら、これからの時代を生き抜く子どもたちに必要な言葉の力を育てていきたいと思います。

本会では、今年度も、「付けたい力を育む『書くこと』の学習活動の創造」実証的な学習過程の重視」を研究主題に掲げ、研究・作問委員会を両輪として、実践的研究に取り組んでいます。研究委員会は、五月から進めてきた研究を、十月三十一日の秋季研究大会で発表いたします。

ます。また、作問委員会は、国語学力診断を十一月に実施し、集計、分析した結果を二月十三日の冬季研究大会で報告いたします。多くの先生方に御参加いただき、御意見をいただきますようお願いいたします。

本会の研究が、県内の国語教室で、先生方の授業改善につながり、子どもたちの豊かな、そして、確かな言葉の力につながっていくことを願っています。

(吉野小学校)

計報

本会の元会長であった中本泰弘先生が、去る令和元年七月三十日に逝去されました。

先生が、長年にわたって本会を温かく御指導くださいましたことに、衷心より感謝申し上げますとともに、謹んで御冥福をお祈りいたします。

秋季研究大会講師

広島女学院大学 人文学部 日本文化学科 教授 植西 浩一 先生のご紹介



昭和五十三年から生駒市立生駒北中学校に勤められた後、昭和五十七年、奈良教育大学教育学部附属中学校に勤められました。平成二十年からは奈良教育大学大学院教育学研究科(専門職学位課程)講師を併任されました。その後、平成二十四年から広島女学院大学国際教養学部国際教養学科教授を務められました。そして、平成三十年から現在まで、広島女学院大学人文学部日本文化学科教授を務められています。

- ・『聴くことと対話の学習指導論』(深水社 2015)
- ・『楽しくなる国語の授業づくり』(明治図書 2011)
- ・『活用型の国語科授業づくり』(明治図書 2009)
- ・『対話的に学び「書く」力が育つ国語の授業』(明治図書 2018 共著書)
- ・『小学校国語科教育法』(建帛社 2018 共著書)
- ・『豊かなイメージ形成をめざした読むことの学習指導―夏目漱石「夢十夜」の先行研究をふまえて―』(国語教育実践理論研究会研究紀要第27号) 2019) など、論文・執筆多数。

―秋季研究大会要項―

期日

令和元年十月三十一日(木)

会場

奈良市立平城小学校

奈良市秋篠町一三九四番地

電話 〇七四二―四五一―四一五一

日程

◇学習公開

十三時十五分～十四時

単元「学習材」



学年	指導者	単元「学習材」
一年一組	若槻由佳理	つたえようわたしのおもい出 「おもい出してかこう」
三年三組	村上 雄太	想像を広げて、自分だけの物語を書こう 「人物を書こう」
五年二組	松浦 健人	資料と資料を関係付けて、「もったいない」を呼びかけよう 「資料を生かして考えたことを書こう」
のぞみ 学級	岩崎 啓子	自分だけのひらがなカルタをつくろう

研究主題について

◇実践報告及び研究協議(分科会)
十四時十分～十五時

◇開会行事
十五時十分～十五時四十分

◇記念講演
十五時四十五分～十六時四十五分

演題

「書く力を鍛える」

広島女学院大学教授

植西 浩一 先生

◇閉会行事

十六時四十五分～十七時

付きたい力を明確にし、学習過程を重視した実践による書く力の高まりを実証的に報告する

事務局 森本 隆史

さわやかな秋風が吹く季節、奈良市立

平城小学校を会場として本年度の秋季研

究大会を開催することになりました。開

催に向けて格別の御尽力をいただいでお

ります平城小学校の先生方と、当日、御

協力をいただく奈良市教育協議会国語部

会の先生方に、深く感謝の意を表します。

さて、本会では、「付きたい力を育む『書くこと』の学習活動の創造 ―実証的な学習過程の重視―」を研究主題とし、試行錯誤を繰り返しながら研究を深めてきました。

小学校では令和二年度から、中学校では令和三年度から全面实施となる次期学習指導要領では、「何ができるようになるか」を明確化するとともに、これまでの教育実践の蓄積を引き継ぎ、児童の実態等に応じて、指導の工夫改善を図り、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図ることが求められています。また、平成二十九年に告示された新学習指導要領の解説「国語編」では、「2国語科の改訂の趣旨及び要点」の中で、学習内容の改善・充実についての記述があります。そこでは、新学習指導要領が、中央教育審議会答申において整理された現行学習指導要領の学習過程を踏まえ、「思考力、判断力、表現力」の各領域において、学習過程を一層明確にし、各指導事項を位置付けたこと、全ての領域において、自分の考えを形成する学習過程を重視し、「考えの形成」に関する指導事項を位置付けたことが述べられています。

また、「平成三十年度全国学力学習状況調査の結果」(文部科学省)の中で、小学校では「目的に応じて複数の資料から適切な内容を取り上げて、それらに関係付けて理解したり、表現したりすることに課題がある。」とし、中学校では、「目的に応じて文の成分の順序や照応、構成

を考えて適切な文を書くことに課題がある。」ことが報告されました。

そこで、本研究会では、これまでの実践を踏まえ、課題解決に向けた学習過程を重視し、今、身に付けさせたい「書くこと」の能力を高める授業研究を行いました。

まず、小学校の低、中、高学年と中学校の各部会に分かれ、「書くこと」について、児童、生徒の実態を基に、高めるべき書く能力を明確化しました。そして、学びの過程として必然性のある言語活動を吟味し、児童、生徒が主体的に、学習の見通しをもって取り組むことができるように単元を構成し、実践に取り組みました。また、本年度は、「書くこと」の領域を扱う研究の三年目であり、過去二年間の実践の成果を引き継ぐとともに、付きたい力としてねらった児童の書く力の高まりが明確になるよう、実証的に書く実践の成果をまとめました。

今回、その成果を発表させていただくことで、先生方の国語科指導の改善や国語教室の経営に少しでもお役に立てば、主催者としてこれ以上の喜びはございません。しかし、改善すべき問題も多く、御参会いただいた先生方からぜひとも御意見・御批判を賜りたく存じます。忌憚のない御意見を賜り、活発な研究討議が行われることを願っております。



《低学年部会》 組み立てを考えながら楽しく 書くための学習活動の創造

垣内 有子

低学年部会では、まだ書くことになれていない児童の実態から、簡単な構成を考えて文や文章を書く力を育てることの必要性を感じた。また、書く相手や目的を明確にすることで、低学年の児童が楽しく書くことができる手立てになると考えた。その力を付けるために適した言語活動を考え、研究を進めた。

一年生では、「のりものタワーを作ろう」を、二年生では、「お話のさくしゅう」を、学習教材に、調べたことを紹介する文章、簡単な構成と表現を考えた絵本を作る学習を、位置付けた。

取組を進めるに当たり、まず、簡単な構成を意識するにふさわしい図鑑や絵本を選び、教室に設置し効果的に活用した。また、付きたい力を明確にしたワークシートを作成し、児童の思考の軌跡や変容を捉えることができるように工夫した。最後に、出来上がった「のりものタワー」や「創作絵本」は、友達と交流し、良いところを見つけて感想を伝え合った。今年度は、この取組を通して、児童の書く意識や書く力がどのように変容したのかを報告する。

《中学年部会》 児童が見通しをもって 主体的に書く学習の展開

中島 宇規

中学年部会では、児童の書く力の実態

から、児童が主体的に「書くこと」に取り組み、読み手にとつて説得力のある文章を書く力を育てる必要性を考えた。本年度は、四年生の「自分の考えをつたえるには」を学習教材に、食に関する話題について自分の考えが伝わる意見文を書く活動を位置付けた。また、書く力を育てるための日常的な取組の事例も合わせて紹介する。

取組を進めるに際して、児童が主体的に書く活動に取り組めるよう、指導の工夫を考えた。

まず、児童が誰に何を伝えるのかといった、相手意識・目的意識をもって学習することをどの過程でも大切にしたい。

次に、何をどのように書くのかといった見通しや完成のイメージをもって取り組むことができるようにした。具体的にはモデル文の活用である。

さらに、説得力のある文章になるよう理由・事例を選び、意見交流を通して構成を意識した文章が書けるようにした。学習を通して、児童の書く力がどのように成長したのかを実証的に報告する。

《高学年部会》 考えが明確に伝わるように 書く力を育む授業づくり

小野 和恵

高学年部会では、児童の実態から、自分の考えについて根拠をもって明確に伝える力を育てる必要性を感じた。事前の実態調査アンケートでは、「書くことは好きだが得意ではない」と答える児童が多く、書くことに自信をもてないでいることが分かった。そこで、五年生では、「明

日をつくるわたしたち」、六年生では、「未来がよりよくあるために」を学習教材に用い、自分の考えに根拠や説得力をもたせて提案文や意見文を書く言語活動を行った。

取組を進めるにあたり、あらかじめモデル文で文章の構成や文末表現を学ぶことで、見通しをもって書く活動に主体的に取り組めるようにした。また、ワークシートや付箋を効果的に使い、自分の考えを整理したり友達と読み合いアドバイスを伝え合ったりする活動を取り入れた。そうすることで、相手を意識しながら自分の考えがより明確に伝わる文章が書くことができるのではないかと考え、研究を進めていった。

今年度の取組を通じて、児童一人一人が書く活動を通して自分の考えが相手に伝わることを実感し、書く力がどのように成長したのか検証し授業実践を報告する。

《中学校部会》 言葉を精選して書く

隅岡 歩

当部会では、叙述段階の能力・態度の育成を中心とする実践的研究を行った。

一つ目は、オノマトペを使って地域の小学生に中学校の給食の紹介文を書く実践である。オノマトペは類義の語彙群が豊かでありながら、それぞれの意味に微妙な差異をもつ。この差異を「言葉のグライダーション」として捉え、言葉に対する感性を磨き、より適切な表現を選ぼうとする態度の育成を図った。もう一つの実践は、職業体験後の礼状

の作成である。相手に対する感謝の気持ち、どのような事実に対応して生まれてきたのかを明らかにし、具体的な言葉で伝えられることを目指した。職業体験の前から指導することで、生徒たちが礼状作成までの学習の見通しを立て、課題を意識して体験を記録するよう工夫した。両実践に共通して、相手を意識したわかりやすい表現に重点を置いて指導が行われている。場面に合わせてより適切な言葉を精選し、丁寧に伝える大切さを再認識させるねらいがある。

国語学力診断について

近年の児童生徒の減少にもかかわらず、多数の御採用をいただき、ありがとうございます。学力診断実施後は、全県集計に御協力ください。本年度も中学校の学力診断を休止とさせていただきます、小学校のみの実施となっております。

本年度も、すべての学年において、「活用」に関する問題を提示しています。これは、知識・技能等を、実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力を診断するものです。(傍線部は、「平成31年度全国学力学習状況調査 解説資料」国立教育政策研究所教育課程研究センターより引用)

本診断についてのお問い合わせは、左記までお願いいたします。

広陵西小(〇七四五一五五―二三八八)

井岡 直人

役員名簿

令和元年度 奈良県国語教育研究会

磯城郡

井谷 憲(安堵中)
上村 謙至(平野小)

宇陀市

渡辺真梨亜(桜井中)
岩城 吉秀(榛原西小)

〈顧問〉

桜井市

松井 謙友(北中)

宇陀郡

鈴木 典子(曾爾小)

〈会長〉

宇陀市

山本 成顕(桜井中)

磯原市

岡本ひとみ(畝傍北小)

〈副会長〉

宇陀郡

山邊 尚治(菟田野中)

高市郡

豊永 拓大(白檀中)

稲浦 寿子(俵口小)

檀原市

辻本 育宏(曾爾小)

大和高田市

高田 滯香(たかむち小)

上北 浩平(畝傍北小)

鳥井 浩(白檀南小)

狩野 晃三(光陽中)

香芝市

巽 正喜(高田西中)

中永 和美(真美ヶ丘西小)

高市郡

藤本 博一(たかむち小)

葛城市

松井 利真(香芝東中)

今西 敏幸(都祁小)

大和高田市

稲葉 元則(片塩小)

北葛城郡

堀川奈津子(新庄北小)

堀之内成美(吉野中)

香芝市

岡田 潤一(高田西中)

御所市

月岡 尚樹(真美ヶ丘中)

鳥居 浩(白檀南小)

葛城市

中永 和美(真美ヶ丘西小)

五條市

吉川 早耶(御所小)

堀之内成美(吉野中)

北葛城郡

山野光太郎(白鳳中)

御所市

櫻井 実希(五條西中)

川西 聡弘(県学校教育課)

御所市

吉川 洋也(御所小)

吉野郡(西)

福井 照美(十津川第二小)

新子 泰夫(県学校教育課)

御所市

吹田 伸也(御所中)

吉野郡(東)

竹内 千陽(川上小)

河合 知子(県立教育研究所)

五條市

小林 良樹(西吉野中)

小西 真充(畝傍北小)

中野 博昭(県人権・地域教育課)

吉野郡(西)

下村 倫代(十津川第一小)

小野 和恵(郡山西小)

垣内 有子(菟田野小)

吉野郡(東)

住吉 邦夫(野迫川中)

隅岡 歩(北中)

中島 宇規(六条小)

奈良市

村上 雄太(平城小)

西井奈都子(六条小)

笹尾 美香(井戸堂小)

山辺郡

辻村 浩子(伏見中)

河野 雄一(筒井小)

田口志津代(上牧第二中)

天理市

高倉 敦史(やまぞえ小)

坂田 喜昭(吉野小)

早川賀英子(畝傍東小)

山辺郡

高倉 愛加(朝和小)

森本 隆史(旭ヶ丘小)

豊田奈和子(片桐西小)

天理市

藤木 春美(北中)

井岡 直人(広陵西小)

高塚 力蔵(生駒東小)

大和郡山市

南岡 春美(北中)

石原宏一郎(平城小)

小倉 康裕(平城小)

生駒市

河野 雄一(筒井小)

八木 由記(桜井西小)

矢追 篤人(富雄中)

生駒郡

鍵谷 昇(大瀬中)

田中 奈生(平群小)

松本 哲(やまぞえ小)

磯城郡

木村あずさ(三郷北小)

倉西 泰平(斑鳩南中)

西岡 裕子(井戸堂小)

大和郡山市

倉西 泰平(斑鳩南中)

久代(平野小)

九鬼 立明(南中)

生駒市

星 直樹(志分小)

久代(平野小)

渡辺 肇(平和小)

磯城郡

久代(平野小)

久代(平野小)

前田 典子(郡山東中)

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

原井 葉子(志分小)

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

堀口 和行(生駒北中)

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

戸田 典克(斑鳩東小)

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒郡

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒市

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒郡

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒市

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒郡

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒市

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒郡

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒市

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒郡

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒市

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒郡

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒市

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒郡

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒市

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒郡

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒市

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒郡

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒市

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒郡

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒市

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒郡

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒市

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒郡

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒市

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒郡

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒市

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒郡

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒市

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒郡

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒市

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒郡

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒市

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒郡

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒市

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒郡

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒市

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒郡

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒市

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒郡

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒市

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒郡

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒市

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒郡

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒市

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒郡

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒市

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒郡

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒市

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒郡

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒市

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒郡

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒市

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒郡

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒市

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒郡

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒市

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒郡

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

生駒市

井上 拓巳(桜井南小)

久代(平野小)

</